

動労千葉乗務員分科会結成委員会をかちとる！



5・19乗務員分科結成委員会であいさつに立つ白石会長

動労運動の変質を糾す！

第五十一回臨時委員会は、十時より、各支部よりの委員・傍聴者五十名の結集をもって動力車会議室において開催され、成立宣言のあと、館山支部小山委員を議長に選出し、沢乗務員分科副会長、動労千葉西森副委員長よりそれぞれ挨拶と決意が述べられ、続いて方針提起に入っていた。動労の変質を正し、団結し、職場を守り階級的組合民主主義の確立と前進をめざし、新組合の旗のもと、新乗務員分科会を結成する。という力強い提起を全体が拍手の中で確認し、結成委員会に移した。

結成委員会の冒頭、病氣入院中のところをかけた白石乗務員会長から「今まで分科会についても組織問題をさけて通ってきた面があったが、そのことが今日の動労の変質を生み出したといえる。今後、われわれは全ての闘う組織と連帯して闘い抜いてゆこう」と力強い決意が明らかにされた。その後、規約・規則制定、予算案、当面する組織方針について提起されていったのである。

業務上事故、刑事事件に対する乗務員の救済を強化

規約の中では、名称を「動労千葉乗務員分科会」と改称、それぞれの規約の制定を行なった。乗務員共済会規則については、「国鉄千葉動力車労働組合乗務員共済会」を発足させ、ここでは主として、乗務員の職務上の事故により刑事事件

日刊
動労千葉

79.5.22

No. 126

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
鉄電二二五八九・公衆電話(22)七二〇七

「動労千葉乗務員共済」発足、更に充実、前進を確認

三月三十日、動労千葉結成以来、八支部の結成をかちとり、その間一〇〇名を超える団結署名を獲得してきた。こうした状況の進展の中で乗務員分科会は、五月十九日、第五十一回臨時委員会を開催した。この間の「中央本部」暴力集団による動労千葉破壊粉砕の闘いの経過と当面する乗務員分科としての組織方針を満場一致確認し、動労千葉乗務員分科結成委員会に切り替えた後、出席者の熱気あふる活発な討議の中で規約・規則、財政諸方針を満場一致で採択し、「動労千葉乗務員分科会」として闘いの一步を踏み出した。

に問われ休職となった者、運転事故による長期休職者の昇給延伸等の問題について論議され、同僚との均衡の問題を充分配慮する中で、従来の「全乗」規則を大巾に改善し、「二年間経過した時点より以後二分の一の昇給保障」を「最初の一年間は除き二年目からは全額保障」することを決定した。

このことは、多数の乗務員が事故と背中合わせで仕事をしている状況下において、「分科会の使命」をまさに的確につかんだ方針であり、組合員が安心して職場活動、乗務が出来る基盤を確立したといえる。

更なる反合・運転保安の闘いを、動労千葉は最先頭で闘う

新たな動労千葉破壊策動の強まりの中で、「動労千葉」の発足は極めて重要であり、今後加えられて来るであろう合理化攻撃、とりわけ、55・10を節とする合理化を、「安定宣言」をもって闘わないのではなく、貨物職場も含めて闘いに決起できる体制、つまり、反動諸攻撃に抗し、職場生産点からの闘いを基軸に総決起出来る体制を早急に確立するために、その中心軸として、この動労千葉乗務員分科会の結成は画期的な意味をもっている。

すべての乗務員は、強化・改善された「共済会制度」を確立し、動力車職場の労働条件を守るための闘う方針を確立した動労千葉へ結集し、八十年代労働運動の行方を決する闘いに総決起してゆこう。